

冬、植物はどうしているのでしょうか？ 植物と一概に言っても、木本と草本があります。木本には、冬場に葉を落とす落葉樹と夏場に葉を落とす常緑樹があります。

落葉樹にはコナラやイロハモミジなどの落葉広葉樹と、カラマツやメタセコイアなどの落葉針葉樹があります。豊橋市役所にあるラクウショウも落葉針葉樹ですね。これら落葉樹は、土中の水分が少なく、光も弱い冬に、光合成をやめ、葉を落とします。ただ、冬芽がすでに出て春が来るのを待っています。その冬芽は毛に覆われていたり、鱗片に覆われて寒さから軟らかい芽を守っています。

一方、常緑樹は冬の弱い光でも光合成をします。常緑樹にはスギやコウヤマキなどの常緑針葉樹と、ヤブツバキやアラカシなどの常緑広葉樹があります。いずれも葉は硬くしっかりしています。常緑広葉樹は葉を寒さから守るため、表面にクチクラ層と呼ばれる蠟を主成分とした層があります。この蠟が透明で反射するので、照葉樹とも呼ばれます。クチクラ (Cuticula) は、つづりからわかるように、英語でキューティクル、日本語で角皮のことです。アオキなど背の低い常緑樹は、冬と一緒に生える背の高い落葉樹が葉を落とした冬こそ日光を多く浴びるチャンスとなります。

さて、草本ですが、一年草、二年草（越年草）、多年草と分けることができます。一年草は、冬は種子で過ごし、春に芽が出ます。多年草は、種子または根で冬を過ごします。二年草は越年草とも言い、ロゼット葉などの形で冬を越します。冬の間地面に張り付いて寒さをしのぎ、少しでも日光を浴びて光合成をし、根に養分を蓄えておき、春に一気に成長するという戦略です。ヒメジョオンは茎が伸びるとロゼット葉はなくなりますが、ハルジオンは茎が伸びた後もロゼット葉を残します。ロゼット (Rosette) はつづりからわかるように、Rose (バラ) のような形をしている葉のことです。ロゼットではなく、立ちあがるものもあります。外来種のニワゼキショウなどです。公園のベンチの下など、踏まれることのないような場所でよく見かけます。

植物の冬の越し方は、どれがいいというものではなく、多様でさまざまな冬の越し方があるのが面白いですね。

H・H



冬越しのニワゼキショウ



カゴノキの冬芽